

Ⅲ 「研修講座」の概要

1 研修講座の計画

2 研修講座の実際

(1) 学習指導研究講座

『授業づくりのポイントをおさえた

小学校体育授業』

(2) 生徒指導研修講座

『対人交流の困難さや粗暴行為が見られる児童生徒
への理解と支援』

(3) 課題別研修講座① 「道徳教育」

『これから求められる道徳教育』

(4) 課題別研修講座② 「外国語教育」

『小・中学校英語のこれから』

【参考資料】

平成 27 年度 北海道立教育研究所「ミニ道研」

① 校内研修・研究「授業研究の活性化」

② 生徒指導・教育相談「解決志向アプローチの活用」

1. 研修講座の計画

	講座名・期日・会場	ねらい ・ 講師等	内 容
1	学習指導研修講座 『授業づくりのポイントをおさえた小学校体育授業』 ・ 6月25日（木） 旭ヶ丘小学校	■小学校における体育授業を進めるうえでの目標設定、振り返り、話し合い活動等の基本的な留意点についての研修を通じて指導力の向上を図る。 ≪講 師≫ 苫小牧市立啓北中学校 教頭 石 田 憲 一 氏 （苫小牧市教育研究所体力向上研究委員会 副委員長）	○実技・演習 「運動の仕方を理解させる目標提示の工夫」 「学習内容を振り返らせたり、できた実感を味わわせたりする活動の工夫」 「児童自身やチームの動きを高めさせる指導の工夫」
2	生徒指導研修講座 『対人交流の困難さや粗暴行為が見られる児童生徒への理解と支援』 ・ 8月28日（金） 室蘭西中学校	■発達障害の可能性が考えられる児童生徒のうち、対人交流の困難さや粗暴行為が見られる児童生徒への理解を深め、その子に合った適切な支援をどのように進めていけばよいのか、具体的な実践例をもとに解決の糸口を探る。 ≪講 師≫ 伊達市立星の丘中学校 教諭 木 村 健 志 氏	○講義 ・ 本人への理解と支援 ・ その子を取り巻く周囲との関わり ・ 保護者との関わり ・ 学校としての支援体制 ・ 関係機関との連携
3	課題別研修講座 ① 道徳教育 『これから求められる道徳教育』 ・ 1月12日（火） 海陽小学校	■道徳の「特別の教科」化の趣旨を理解し、新しい道徳の授業の在り方を考える。 「考え、議論する道徳への転換に向けた指導過程や発問の工夫」 ≪講 師≫ 八丁平小学校 難波 茂伸 教諭（所員） 旭ヶ丘小学校 渡辺 浩輔 教諭（所員） 桜 蘭中学校 北原 英法 教諭（所員）	○説明・模擬授業 2018年度から「特別の教科」となる道徳について、所員による学習指導要領の要点解説と模擬授業の紹介
4	課題別研修講座 ② 外国語教育 『小・中学校英語のこれから』 ・ 1月12日（火） 海陽小学校	■児童生徒が楽しさを実感できる教材作りや小・中学校英語の授業の在り方を考える。 「教室英語と絵本の活用」 ≪講 師≫ 海 陽小学校 相馬 和俊 教諭（所員） 知利別小学校 佐藤はるひ 教諭（所員） 東 明中学校 桐 敦子 教諭（所員）	○説明・実演 これからの小・中学校英語の充実に向けて、所員による絵本の活用やスキルアップのための方策などを紹介

2 研修講座の実際

●室蘭市教育研究所学習指導研修講座

～授業づくりのポイントをおさえた小学校体育授業～

ねらい

- ・小学校における体育授業を進めるうえでの目標設定、振り返り、話し合い活動等の基本的な留意点についての研修を通じて指導力の向上を図る。

講師

苫小牧市立啓北中学校 教頭 石 田 憲 一 氏
(苫小牧市教育研究所体力向上研究委員会副委員長)

日時 平成27年6月25日(木) 室蘭市立旭ヶ丘小学校(参加者21名)

講座の概要

今回の講座「授業づくりのポイントをおさえた小学校体育授業」は、苫小牧市教育研究所体力向上委員でもある、苫小牧市立啓北中学校教頭の石田憲一氏を講師として、旭ヶ丘小学校のアリーナを会場に実施した。

研修講座は座学と実技の2部構成で、石田氏にはすぐに実践に活かせる指導方法を多々教えていただいた。子どもたちが楽しんで取り組めるようなネタが満載で、参加された先生方の満足度も100%であった。

座学の内容は「目標提示の工夫」「学習内容の振り返りや、できた実感を味わわせる活動の工夫」「自分自身やチームの動きを高める指導の工夫」について、ポイントを絞って説明していただいた。また、言語活動を取り入れた授業の流れについてもお話ししていただき、友だち同士の関わりから、児童のやる気を高める手立てについても学ぶことができた。

実技は、1人・2人・グループ等、様々なシチュエーションで活用できる運動を、実際に体験していった。体験することにより、動く時のポイントや実際の疲労感、何よりも体育の楽しさを体感できたことが最大の収穫であった。楽しんで活動することの大切さを、実感させられた講座であった。



参加者の感想から ～一部抜粋

○「体ほぐし」のボールを使ったストレッチからフラフープダッシュまで、用具を使いながら楽しく運動できました。自分自身も身も心もほぐれ、子どもたちの心境で授業を体験でき、とても勉強になりました…

《瞬発系の動き》

運動の計画	運動の弊害
1. 体ほぐしの運動 ① 股関節の柔軟性 ・片足で膝関節を回す ・2人1組で、つま先立ちで背中を支えられ、つま先で文字を書く 【関連科目】陸上競技(走り方) ●関連● 40mとの区切り(カーブ)を走りながら、各部分の運動に合わせて取り組まれる。教師が正確なフォームを提示、教える。	・柔軟性
2. もももぎモリッポ ・2人1組で、もももぎをしながら足に手をかけ、足にタッチ	・土音が消えない ・素早い動き
3. 力強い動き ① フラフープの高さでジャンプ ・2人1組でフライングジャンプを繰り返す。連続ジャンプ	・高さの調節
② 2人1組で手をつなぎ、ジャンプ ・体育館のラインをまわす。前後、縦向きジャンプ	・ミラーの動き、反動の動き
3. フラフープを利用したゲーム ・2人1組で各々フラフープを持ち10秒続ける。フラフープを回し、対面でも同じように回されているフラフープを回れる。2人～5人1人単位で自由に、チャレンジする。	・距離を測る ・2人～5人1人単位で自由に、チャレンジする。

○子どもたちが喜ぶワザをたくさん教えていただき、大変勉強になりました。実際に自分が体験することで楽しさも分かり、子どもたちに楽しんでももらいたいと思えました…

○楽しんでやる大切さを実感、痛感しました。楽しく明るい体育の授業を創っていけるよう、早速授業にとりいれてみます…

メモ

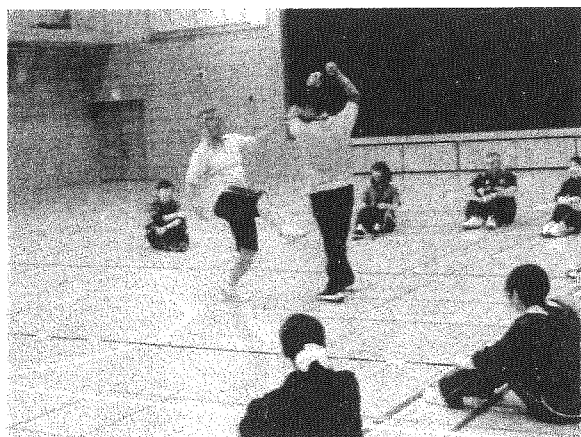
＜運動の計画の行い方の例＞小学校～中学校

例えば…

- 体力テストの結果をヒントに、体力を高める運動の計画を立てる
- 各授業の導入として、その種目に必要な、柔軟性・敏捷性・調整力・能力などを取り入れた運動の計画を立てる → 準備運動、授業(種目)の準備運動で取り入れる
- バランスのよい組合せ、継続的な運動の計画のヒントとして、取り入れる
 例 ストレッチング → ウォーキングレベルの運動 → ランニングレベルの運動
 → 筋力アップの運動 → ウォーキングレベルの運動 → ストレッチング
 ※ ねらいは、健康の保持増進、生活習慣の予防、バランスよく高める。

講座で配布していただいた参考資料、運動の内容が目的ごとに分けられ、関連種目と解説が補足されている。

○実技を交えての研修でしたので、とても楽しく学べました。子どもに楽しく教えることができそうです。また、体を動かすだけでなく、言語活動も取り入れてみたいと思いました…



参加者アンケートより



●室蘭市教育研究所生徒指導研修講座

～対人交流の困難さや粗暴行為がみられる児童生徒への理解と支援～

ねらい

- ・発達障害の可能性が考えられる児童生徒のうち、対人交流の困難さや粗暴行為が見られる児童生徒への理解を深め、その子に合った適切な支援をどのように進めていけばよいのか、具体的な実践例をもとに解決の糸口を探る。

講師

伊達市立星の丘中学校 教諭 木村 健志 氏

日時 平成27年8月28日（金） 室蘭市立室蘭西中学校（参加者34名）

講座の概要

今回の講座「対人交流の困難さや粗暴行為がみられる児童生徒への理解と支援」は、講師として伊達市立星の丘中学校の木村健志氏をお招きして、室蘭西中学校の視聴覚室を会場に実施した。星の丘中学校は、情緒障がい児短期治療施設「バウムハウス」の子どもたちが通う特別支援学級だけの小中併置校であり、木村氏には長年の経験を生かし、児童生徒のみならず、保護者対応についてもご指導いただいた。以下、ご指導いただいた内容について概要を紹介していく。

○ 個別の指導計画にあたって

◎ 実態の把握

- ・本人を詳しく知る（蛍光灯の光が痛くてその部屋にいられない、雨が当たると一つの毛穴に針が何本も刺さるように痛い、いつも体を揺らしたり跳んだりしている等、様々な特質がある）。
- ・ポイントとしては、子どもが何につまずいているか、どこまで習得しているか、課題に取り組んでいる時の子どもの様子、どの部分で支援を必要としているか、子どもや家族のニーズ等を見極める必要がある。

◎ 目標の設定

- ・短期目標、長期目標の設定。
- ・その子の将来をイメージして、どんな力が必要か判断する。つけたい力の明確化（自分の気持ちを言葉にする力、自分で選択する力等）が大切である。

◎ 指導の手立てを考える。

◎ 共通理解を図る。

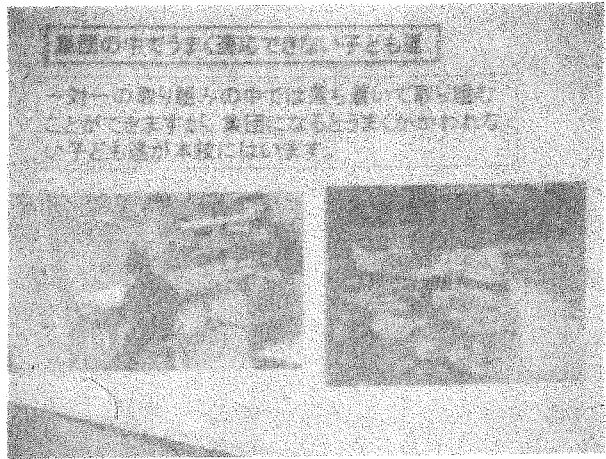


大切なポイント！

◎ 評価・改善をしていく。

- ・思いついたことをその都度追記していくことが大切。

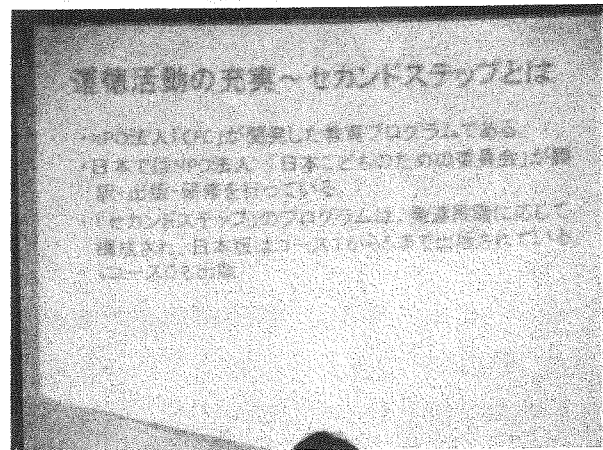
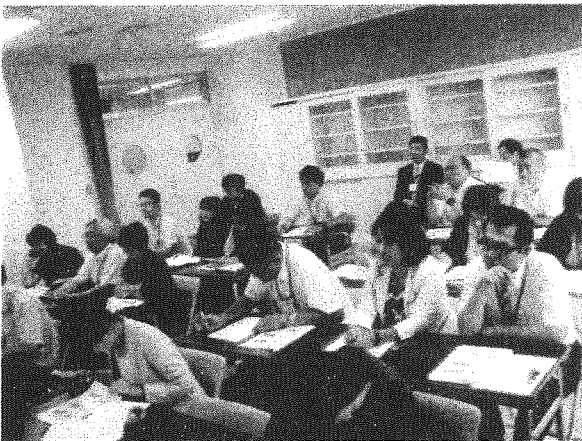
※ 作成のポイントを教えていただいた。



○ 実践事例の紹介

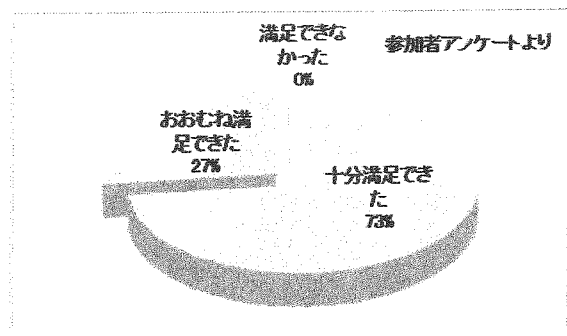
- ◎ 道徳活動の充実 → セカンドステップの取組
※ライセンス制、日本版はコース1から5まで出版されている
- ◎ 自立活動 → グループ別活動（自己理解・他者理解の機会）
- ◎ 日々の振り返り → 自己肯定感を高める（自分のできたこと、いいところを具体的に振り返る）
- ◎ 外部講師の活用 → 経験値の拡大
- ◎ がんばりの表 → 普段なかなか賞賛されないことを評価し、周りに伝えていくもの

※ 星の丘中の具体的な取組を通して、発達障がいをもつ子どもたちとの関わりのポイントを教えていただいた。



参加者の感想から ～一部抜粋～

- 児童の将来をイメージしながら、一緒に活動していくことの大切さを実感できました…
- 見通しをもって諦めず、継続的に指導を行っていく力を付けていきたい…
- 子どもを愛する姿勢、自己肯定感を高める意識を改めて感じる事ができた…
- 個別の支援計画と共通理解を図ることができる校内体制作りの重要性を改めて実感した…



●室蘭市教育研究所課題別研修講座「道德教育」

～これから求められる道德教育～

ねらい

道德の「特別の教科」化の趣旨を理解し、新しい道德の授業の在り方を考える。

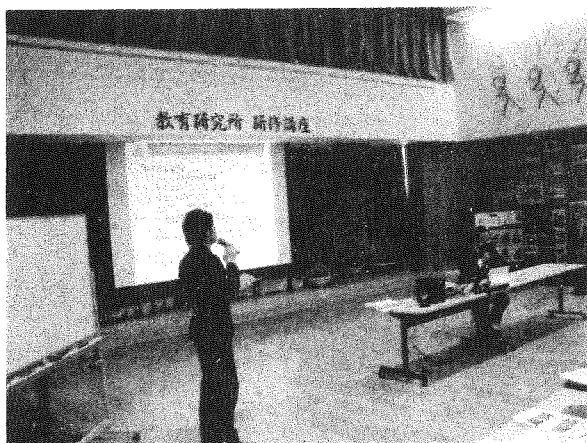
講師

室蘭市立八丁平小学校	教諭（道德教育チーム）	難波 茂伸 所員
室蘭市立旭ヶ丘小学校	教諭（道德教育チーム）	渡辺 浩輔 所員
室蘭市立桜蘭中学校	教諭（道德教育チーム）	北原 英法 所員

日時 平成28年1月12日（火） 室蘭市立海陽小学校（参加者56名）

講座の概要

今回の講座「これから求められる道德教育」は、本市教育研究所の道德教育チームの3名を講師に実施した。



講座は2部構成で、第1部は高見所長の説明に、難波所員が質問したり補足確認をしたりする、掛け合いのスタイルで「学習指導要領改訂のポイント」や「道德が教科化することにより何が変わるのか」等を分かりやすく教えていただいた。

第2部は渡辺所員と北原所員による模擬授業を行い、その後、小中毎の分科会に分かれて研究協議を行った。模擬授業では、「導入と展開の工夫」や「効果的な資料の活用の仕方」等を扱った実践事例を提示していただき、研究協議も活発な

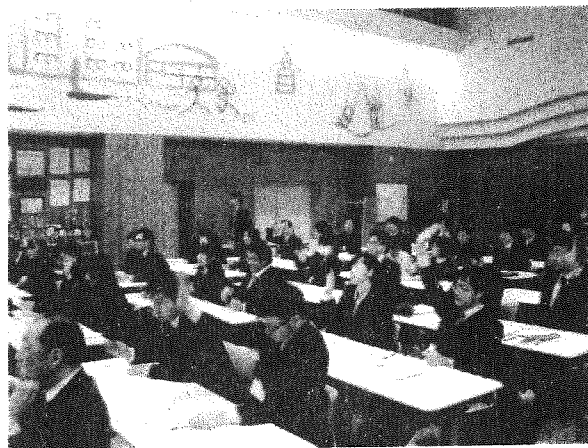
ものとなった。

今回は、長期休業中に「外国語教育研修講座」との2講座同日開催という新たな試みを行ったが、「時間の都合がつけやすい」や「参加しやすい」等の声を多数いただき、参加人数も普段の研修講座の倍ほどの人数を集めることができた。

参加者の感想から ～一部抜粋～

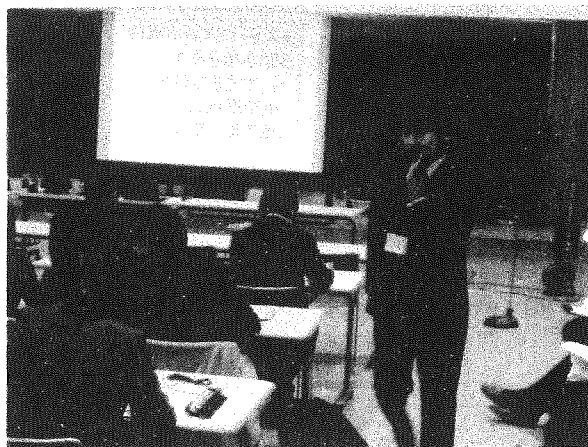
○これから道德がどう変わっていくのかなど大

変勉強になりました。模擬授業も見せていただけて、授業作りや発問のイメージなどをもつことができました…



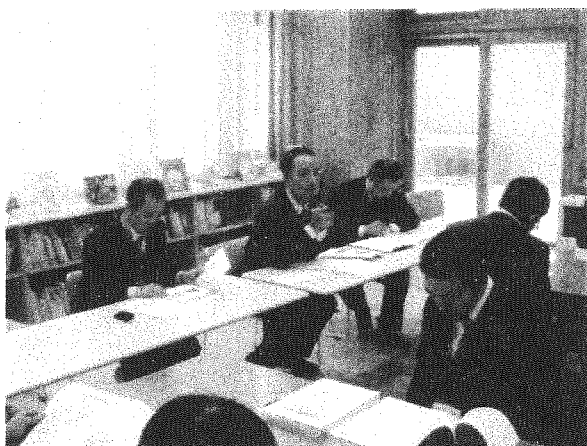
○模擬授業から考えることで、より具体的で実践に近い思考の機会となりました。これからの道徳に向けて、少しずつ実践に変化を与え、日々考え続けていきたいと思いました…

○今、求められている道徳教育の全体像がよく分かる内容でした。模擬授業では、「考え、議論する道徳授業」が意識された構成になっていました…

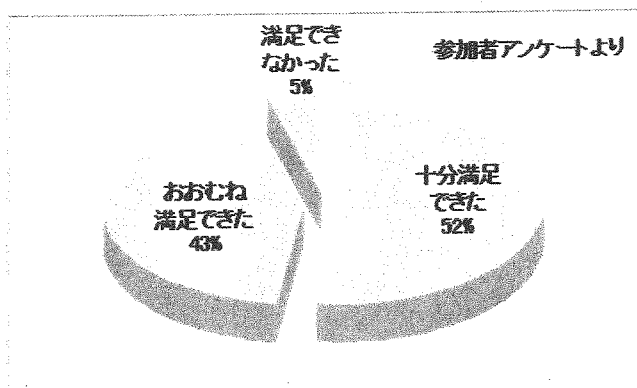


○授業では、子どもに過去の行いを振り返らせるというよりも、これからどのように行動するかなど、「未来」に目を向けさせることが大事だと分かった…

○話し合う、議論することにつなげるところは難しいと感じた、自分の意見をもつことで終わらせないことを念頭に置いて授業を実践したい…



講座で使用したスライドを一部紹介します。詳しい内容は、本研究紀要の「道徳教育チームのページ」や研究所発行の「リーフレット」をご覧ください！



これから求められる道徳の姿 ～スライド資料より～



Q6 これから求められる道徳の姿①

① 道徳授業の指導と評価の工夫・改善

- 形式的・受け身的な授業から、「考え、議論する道徳授業」への転換を図るための指導方法の工夫・改善、日常実践の積み上げ。
- 一人一人の良さや成長をみとる評価の在り方。
 - 自己評価、作文、ノート、観察、ポートフォリオ評価等
 - 学校としての評価方法をどのように確立していくか。

道徳性が養われたかどうかの判断は難しい。だからこそ、道徳の授業を意図的・計画的に指導し、評価していくことが必要。(行き当たりばったりの指導では個人内評価はできない)



Q6 これから求められる道徳の姿②

② 道徳教育の視点からの学校スタンダードの確立

- めざす児童・生徒像の明確化・共有化・重点化。
 - ・ 「年間35時間」-「価値項目数」=「学校裁量の時数」
 - ・ 重点指導、複数時間指導等をどのように取り扱っていくのか。→道徳教育に対する学校の考え方が問われる。
- 道徳教育の全体計画（別乗含む）及び年間指導計画の作成と工夫・改善が重要。

日頃からの「言語活動の充実を図った授業展開」と、「信頼関係や温かい人間関係の醸成」等が大切。

●室蘭市教育研究所課題別研修講座「外国語教育」

～小・中学校英語のこれから～

ねらい

児童・生徒が楽しさを実感できる教材作りや小・中学校英語の授業の在り方を考える。

講師

室蘭市立海陽小学校	教諭（外国語教育チーム）	相馬 和俊	所員
室蘭市立知利別小学校	教諭（外国語教育チーム）	佐藤はるひ	所員
室蘭市立東明中学校	教諭（外国語教育チーム）	桐 敦子	所員

日時 平成28年1月12日（火） 室蘭市立海陽小学校（参加者50名）

講座の概要



今回の講座「小・中学校英語のこれから」は、本市教育研究所の外国語教育チームの3名を講師に実施した。

外国語活動の研修講座は昨年度も実施しており、「外国語活動導入の経緯」「コミュニケーション活動の実際」「教材開発の視点」等について行い、今年度の講座では授業改善の視点として、「Classroom English を使った授業の進行」「英語絵本の活用」「ALT との TT 指導の実際」等について、実践を交えながら教えていただいた。

特に「英語絵本の活用」・「ALT との TT 指導の実際」の場面では、講師の前に講座に参加された先生方が集まり、実際に授業を受けるようにして講座を進行した。発音やジェスチャー、絵本の開き方、ALT との掛け合いのテンポなどをライブで感じる事ができ、学校に戻ってからすぐに実践に活かせるようなネタをたくさん紹介していただいた。

参加者の感想から ～一部抜粋～

○絵本を使っでの導入や授業の進め方など、楽しく学ぶ方法を教えていただき、とても参考になりました…他の教科でも意識しなければならぬ事柄も多く盛り込まれていることを感じました…





○実際の授業風景を見せていただき、大変イメージがふくらみ、ためになりました…

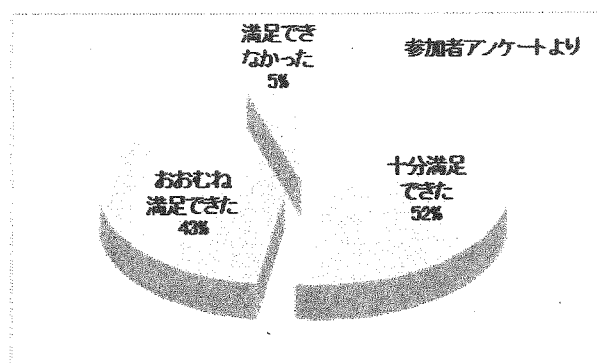
○絵本の活用が具体的で分かりやすかった。Hi Friends とうまく組み合わせて使ってみたいと思いました。室蘭市は ALT との連携が上手くいているように感じました。参考にしたいと思います…

○いただいた DVD ありがたかったです。大切に使います…

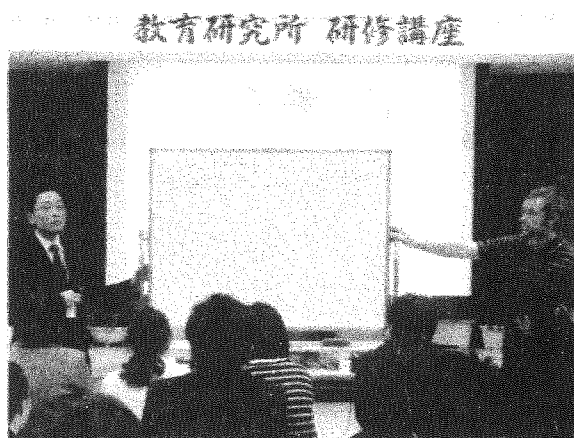
○今後に向けてすべき準備が体験的に実感でき、小中高と一貫して英語教育が充実していけるよう、現場の人間として準備や勉強を進めていこうと思える機会になりました…



講座で使用したスライドを一部紹介します。詳しい内容は、本研究紀要の「外国語教育チームのページ」や研究所発行の「リーフレット」をご覧ください！



教育研究所外国語教育部会のQRコードです、各種資料をご活用いただけます！是非アクセスして下さい！



授業に絵本を

1～6年生までに使えるいい道具になる

使い方

☆1冊をのりこい紙で使う。(1～4年生)

・色・食べ物・動物・挨拶・ものの言い方
・数字・曜日・形 など

様々な単元を構成できる。

☆多くの本を使う。(5～6年生)

単元ごとに選んだり、絵本タイムを設けたりすると授業に取組みやすい。

見せ方

☆近くに集めて読む。

☆実物投影機でTV画面に映して読む。

☆本とコピーの両方を見せて読む。

児童の参加を増やす方法

☆1回目～始 め…教師が読む

終わり…教師と児童(単語)

2回目～始 め…教師と児童(単語)

終わり…児童(フレーズ)

☆「どうなると思う?」「わあ、すごいねえ」「なんて言うと思う?」「一緒に言ってみよう」などと全話しながら読む。

※ 参考資料 平成27年度北海道立教育研究所「ミニ道研」

① 校内研修・研究「授業研究の活性化」

② 生徒指導・教育相談「解決志向アプローチの活用」

ねらい

- ①授業改善に直結する校内研修・研究の進め方を理解し、自校の校内研修・研究を改善充実させる力量の向上を図る。
- ②解決志向アプローチの考え方とその活用方法について理解することで、児童生徒理解に基づいた自校の生徒指導の在り方を改善する実践力を身に付ける。

講師

- ①北海道立教育研究所企画・研修部 主 査 長 浦 紀 華 氏
- ②北海道立教育研究所研究・相談部 研究研修主事 赤 塚 恒 太 氏

日時 平成27年8月18日（火） 室蘭市役所本庁舎2F3号会議室（参加者35名）

講座の概要

今年度は北海道立教育研究所と連携して、胆振管内のミニ道研を室蘭市で行うこととした。両講座共にペアワークを取り入れた演習を行い、参加者を飽きさせないように工夫される中で研修を深めることができた。講座は午前と午後の2部構成で、以下のような流れで進めていただいた。

①校内研修・研究「授業研究の活性化」

■説明「校内研修・研究の進め方」

- 1 校内研修（研究）の意義
- 2 研究主題、研究仮説の立て方
- 3 成果と課題の明確化

■演習「授業改善を促す校内研究の方策」

- 4 授業改善を促す校内研究の方策
（ワークショップ型の研修の進め方…指導案拡大シート及びマトリックス法の体験）
- 5 振り返り

②生徒指導・教育相談

「解決志向アプローチの活用」

■説明・演習

- 1 解決志向アプローチの考え方
- 2 解決志向アプローチを用いた関わりの実際
- 3 解決志向アプローチで用いる手法
- 4 日常の教育活動等で用いる解決志向アプローチ
- 5 まとめ

胆振管内の先生方を対象としているため、室蘭市内のみならず他市町から参加される先生も多数いらっしゃった。また、道立高校の先生や本市の訪問アドバイザーの皆さんの参加などもあり、様々な視点から研修を深められていた。